

感じられるもの 感じられないもの

2 巻頭言

特集エッセイ

- 6 白線の内側に下がってお祈りください
——「INU」と「汝、我が民に非ズ」における町田康の「(リ) ターン」
荒原邦博
- 15 感じられるもの 感じられないもの
——モダニズム芸術における感性とインパーソナリティについて
加藤雄二
- 26 ふたつのベンガルにおける死と死者の表象
丹羽京子
- 45 聖家族のエジプト逃避行
——形ある伝説
三代川寛子

自由論文

- 52 アメリカへのまなざし
——パヴェーゼ、カルヴィーノ、エーコ
小久保真理江
- 78 〈手ざわり〉のなかの関係
——谷崎潤一郎の〈盲目〉の世界
柴田勝二
- 102 バフチン理論における詩と小説
——ソクラテスのダイアローグ論およびカーニバルにおける笑い論を中心
的な視座として
田島充士
- 126 藤原定家写生論
——正岡子規を視座に
村尾誠一
- 144 覗く視覚装置の系譜学的研究に向けて
——覗き眼鏡と眼鏡絵を中心に
吉本秀之

報告 (2019 年活動報告)

- 160 多文化社会を創造的に生き抜くための異文化跳躍力
育成について
(田島充士)
- 163 翻訳と近代
(山口裕之)
- 165 ルーミーの思想を読み解く
——『精神的マスマナー』の説話が描く世界
(佐々木あや乃)
- 167 総合文化研究所主催「文化の多様性プロジェクト」
トルストイ・ポスター展および学生によるミニレクチャー
(沼野恭子)
- 169 未来派と女性
——アヴァンギャルド運動初期の偏見と修正、理論と神話 (1909-1918)
(横田さやか)
- 171 総合文化研究所 Workshop Series 第8回
19 世紀ロシア風景画
——第一回移動展覧会におけるサヴラソフ『ミヤマガラスの飛来』の評価
(井伊裕子)

- 172 関西学院大学 田村和彦教授 講演会
閉ざされた身体／流れ出す身体
——モデルネの身体表象 (ボディ・イメージ) をめぐって
(西岡あかね)
- 174 総合文化研究所 Workshop Series
修論中間発表会
(久野量一)
- 176 ザメンホフとポストニコフ
——エスペラント語をめぐる理想と冒険
(沼野恭子)
- 178 総合文化研究所主催シンポジウム
The Joy of Translation?
(山口裕之)
- 182 多言語オペラ『女船客《The Passenger》』上映会
(久野量一)
- 183 2019 年度イタリア文化関連の講演会
(小久保真理江)
- 186 対談：今福龍太 × 朝吹真理子
抽斗のなかの海、迷宮のなかの海
——ソング、ボルヘス、生きている石、そして〈永遠〉について
(山口裕之)

書評

- 192 村尾誠一著
『会津八一 (コレクション日本歌人選 68)』
時空に身を浸して
菅長理恵
- 195 カルラ・スアレス著 / 久野量一訳
『ハバナ零年』
笑い、セックスし、夢を見るしかないキューバで、
かつて電話が世界で初めて発明されていたことを証
明しようとする、そんな小説
野平宗弘
- 201 田島充士編著
『ダイアローグのことばとモノローグのことば』
ヤクビンスキー論から読み解くバフチンの対話理論』
バフチン読解への新たな観点
森岡正芳
- 210 李光平・金富子・中野敏男・橋本雄一・飯倉江里衣 編著
『「満洲」に渡った朝鮮人たち～写真でたどる記憶と痕跡～』
米谷匡史
- 212 アッタール著 / 佐々木あや乃訳註
『神の書——イスラーム神秘主義と自分探しの旅』
藤井守男
- 216 ヨシフ・プロツキー詩、イーゴリ・オレイニコフ絵、沼野恭子訳
『ちいさなタグボートのバラード』
井伊裕子
- 218 編集後記